

「すべてのいのちを守るための月間」

ヨゼフ アベイヤ司教のメッセージ

2020年8月21日

福岡教区兄弟姉妹の皆様

主の平和

昨年の11月の教皇フランシスコの日本訪問の思い出は、皆の心に残っていることに違いないと思います。「すべてのいのちを守るため」というテーマを掲げて日本に来られた教皇様を喜びのうちに迎えたのです。そして、教皇様と「共に」有意義な四日間を過ごすことができました。感謝です。

教皇様が多くの人々との出会いのうちに示された温かい態度と、私たちと全世界に向かって教皇様が語られたことばのうちに、福音の光が輝いていました。

皆さんの心に、どういう場面、どういうことばは、特に響いたのでしょうか。希望、平和、思いやり、非核、非暴力、人権、愛、慈しみ、福音的な証し、さまざまだろうと思います。その一つ一つについて教皇様の深い考察と厳しい要求がありました。読み直して、考え直していくうちに、私たちの心に深く刻まれていきます。これからの私たちの教会の歩みを導く大切なことばです。

「すべてのいのちを守る」というメッセージは、教皇フランシスコが繰り返されてきました。神様からいただいた命は、最高の賜物として受け止め、感謝のうちにそれを守り、育むことは、すべての人々の考え、価値観、行動の基準になるように教皇様は呼びかけてこられました。2015年に発表された「ラウダート・シ」という回勅の中で特にこのことを訴えられたのです。それは、人権、正義、平和、環境保存に深くつながっていると強調されています。

現代社会の動きを見ますと心が痛む現実は、残念ながら、多いです。その中で、教皇フランシスコが呼び掛けておられるのは、回心です。「エコロジカルな回心」です。「エコロジカル」ということばのルーツを考えると、よく分かります。「エコ」とはギリシャ語の「OIKOS」(家という意味)からきています。「ロジカル」とはギリシャ語の LOGOS(ことば・知恵という意味)からきています。つまり、家の調和を保つ知恵です。「皆の家」ですから、「皆が」共に住める場としてその調和と美しさを守ることです。

日本の司教団はこのメッセージをしっかり受け止めて、教皇様の訪日を記念して、これから毎年の9月1日から10月の4日までの期間を、「すべてのいのちを守るための月間」と定めまし

た。呼びかけの手紙の中で、司教協議会会長の高見大司教はこのようにのべられています。「すべてのいのちを守るためには、ライフスタイルと日々の行動の変革が重要であることはいまでもありませんが、とくにこの月間に、日本の教会全体で、すべてのいのちを守るという意識と自覚を深め、地域社会の人々、とくに若者たちとともに、それを具体的な行動に移す努力をしたいと思います。」

この「行動」とは、色々な形を取ることができます。なぜかという、日本司教団のメッセージにあるように、「教皇フランシスコが回勅『ラウダート・シ』(2015年)で述べているように、わたしたちは環境問題を、社会、経済、人権問題など関連づけて、総合的なエコロジーという観点から理解しなければなりません。」

司教団のメッセージの中でいくつかの具体的な取り組みが提案されています。わたしたちの福岡教区では、各小教区、施設(学校、幼稚園、福祉施設等)、修道院、活動団体のプログラムの中で、この月間の呼びかけに応えるように工夫していただきたいと思います。それぞれの場や状況に合った形で何かを企画して下さるようお願いいたします。新型コロナウイルスの状況の中で、教区レベルでも企画できませんが、各小教区・施設等で、また、個人的にもできることがあるでしょう。よろしくお祈りします。司教団の手紙で提案されていることを参考にすることができますし、自分たちの創造的な企画を実現することもできます。

皆さんの上に神様の豊かな祝福を祈ります。



ヨゼフ アベイヤ
カトリック福岡教区司教